



ディスタンス

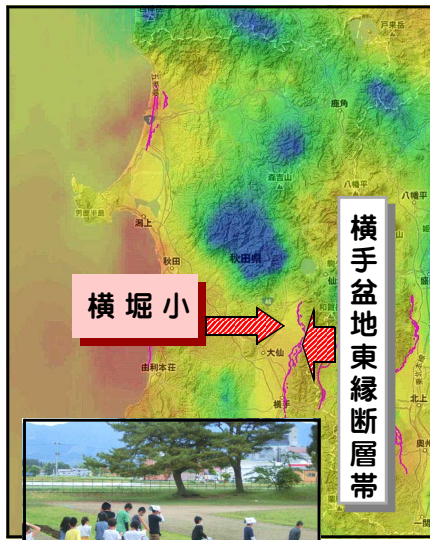
学校教育目標「夢に向かって 心豊かに たくましく生きる子ども」  
 ～“自分で考え みんなと創る” 楽しい ふるさとの学校～

## 命を守る「避難訓練」 横堀も地震への備えが必要です！

今から38年前の日本海中部地震。だいぶ年月が過ぎましたが、遠足の小学生13名もの命が犠牲となってしまったこの地震は、今も忘れられない災害です。

本校でも、県民防災の日に近い31日(月)に全校児童が参加して、防火扉を通る訓練も上手にできて、整然と避難場所へと移動することができました。

避難訓練の中では、いつも「日本のまわりのプレートのこと」と、横堀の近くにある、いわゆる“千屋断層”「横手盆地東縁断層帯」について話します。



いざというとき、「自分の命を自分で守る」ためにも、やはり「自分で考える」ことを大事に育みたいものです。

- ※冷静に行動する力
- ※「倒れてこない・落ちてこない・移動してこない」  
安全な場所をとっさに見つけて身を守る力
- ※大人の指示を素直に聞いて行動する力
- ※多くの情報を取捨選択し活用する力

普段の集団登校や授業、そして、たてわり活動の中でも、しっかりと育てていきたいと考えています。



## 横堀小学校の 103人全員に “タブレット贈呈”

国の「GIGAスクール構想」事業の一環として、子どもたちと先生方に1人1台のタブレットが配付され、“どうか”“だいぶ”使えるようになりました。

タブレットが届いた後も、子どもたちのパスワードの確認や入力、Wi-Fiの接続等、いろいろな作業がありましたので、まさに、“どうか”ここまでも来た感じでした。

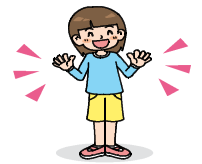
そして、どの教室にも大きなディスプレイ等があるわけではないので、まだまだ“だいぶ”よくないです。プレイ等があるわけではないので、状況ではありません。しかも、子どもたちが各家庭へ持ち帰って使用するまでには、準備にもう少し時間がかかりそうです。

それでも、「できることをやりましょう」の考え方で『まず使うこと』を大事に、授業で使っていきます。

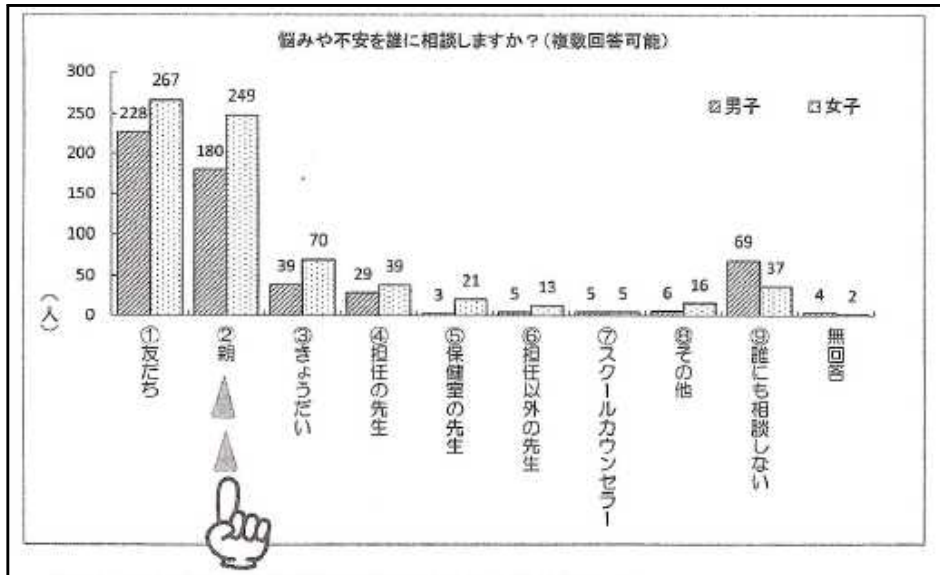
子どもたちには、「見ること」や「つながること」ができるタブレット端末を使って、これまで簡単にはできなかった「創ること」を楽しんでほしいと思います。



# SOSの出し方に関する教育



大仙市の主催する教育講演会が、市内全部の小・中学校で実施されています。本校では5、6年生が「自分を大切にしよう！不安やなやみへの対処」というテーマで講演を聴いて、勉強しました。この日は、大仙市健康増進センターから、保健師さんと臨床心理士のお二人が来校し、誰もが不安や悩みを抱えていることや、相談することの大切さをお話してくれました。その後、子どもたちはペアになって、相談する練習（ロールプレイ）を体験しました。

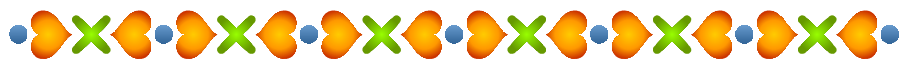


上のグラフは、令和元年度に、大仙市の全ての中学生にとってアンケートの結果です。やはり、「友だち」が1位です。それでも、“全体的に見ると”、「親」の数字もかなり検討しています。でも、不安や悩みの相談は、“全体”ではなくて、一人一人の“自分が”するものです。保護者の皆さんにとっては、自分の子どもも、いつしか「親」を超えて「友だち」が1位になる日が来るかも知れません。そのときに向けて、次の三つのことを大切にしていきたいませんか？

- いつでも相談したくなる親であり続けること
- 子どものSOSを感知する心のアンテナ精度を上げておくこと
- 子どもには、相談できる友だちがいること

## ～子どもの声～

- 6年生 志保さん 「私は、たくさんの友だちとの関係を深めたり、一緒に解決したりする方法もあと分かりました。実際に困っていたら、声をかけてみたいです。」
- 6年生 明莉さん 「悩みがあるときは、1人でためずに、家族や友だちに悩みを打ち明けるといいと分かりました。悩みがあったら、勇気を出して打ち明けたいです。」
- 5年生 匠希さん 「いやなこととかを、自分の気持ちがわかってくれる人に話けるといいことが分かりました。」
- 5年生 朋輝さん 「一人でかかえないで、他人に言って、少しでも気を楽にすればいいと分かりました。」



## みんなのがんばり紹介

毎週続く大事な試合の中、着実に練習の成果を発揮して見事な準優勝おめでとうございます！

高円宮杯 第41回全日本学童軟式野球大会  
秋田県大会大仙美郷支部予選 第2ブロック

マクドナルドトーナメント

準優勝 横堀マイティ・ノース